

3 冷水病の生態系への影響

冷水病菌を保菌したアユが天然河川や湖沼に放流されると、冷水病菌も天然水域にまき散らされることとなります。アユは一年魚で、秋に成熟した後死亡することから、アユに感染した冷水病菌も翌春までには完全に河川から消滅するのではと考えられていました。しかし、最近の研究では、冷水病菌に特有のDNAが河川の石に生えているコケ等から検出された例や、数は少ないものの成熟しないアユが翌春まで河川に生存していて、そのうちの一部のアユから冷水病菌が検出された例が報告されています。つまり、河川から冷水病菌を撲滅することは非常に難しいと思われれます。一旦冷水病菌が入った河川では冷水病菌を保菌していない放流アユや天然アユであっても冷水病に感染する危険にさらされることとなります。こういったことにならないためにも保菌アユを放流しないよう常々心がけなくてはなりません。